

# 効果的な施策を展開するための考え方の点検ツール

～地域包括ケアシステムの深化・推進に向けて～

2023年4月

(株)日本総合研究所

## 1 地域のビジョンの共有と分野横断的・統合的なマネジメントへ

### 地域のビジョンや目標を改めて検討する

- これまで、高齢者・介護部局が中心となって、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みが行われてきました。しかし、これからの少子高齢化のさらなる進展や地域ごとの事情も踏まえると、各分野・領域を超えて共有できるよう、全体最適化の観点から機能性を高める取り組みが不可欠です。
- もとより地域包括ケアシステムを構成する社会資源や体制等は、それらが相互に連携することで大きな効果が期待されるものです。地域包括ケアシステム構築の節目となる2025年を迎えようとする現在、「わがまちの地域包括ケアシステムとは」を改めて見直し、地域のビジョンや目標を再度明確化することが大切です。

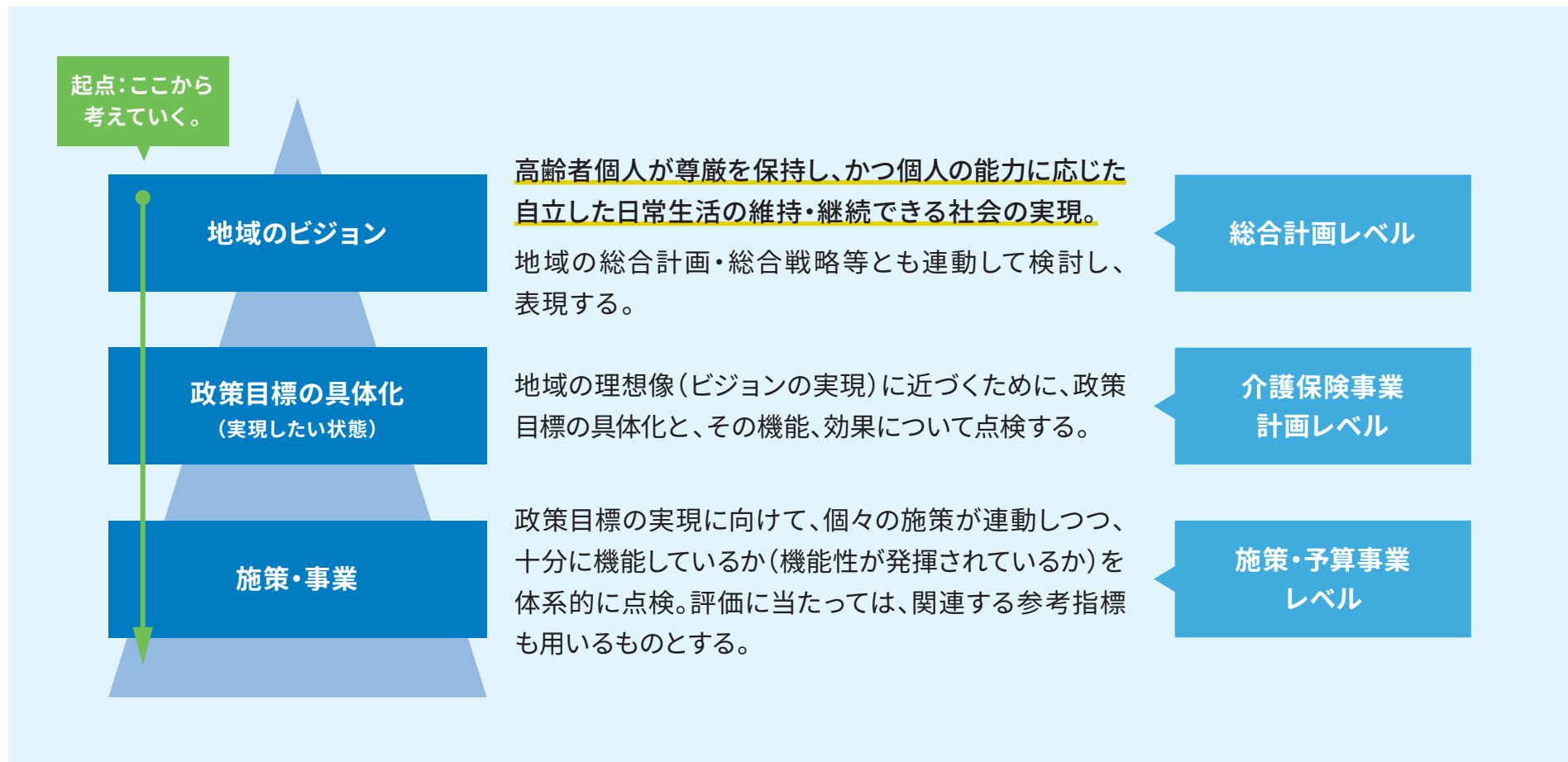
## 2 資源や事業の整備から、機能性の発揮への転換

### 全ての社会資源や体制等を最適化し、効率的に繋ぐことが重要

- 社会資源の整備のみならず、既に地域にある社会資源や体制を工夫して改善し、その機能性を高めることこそが、地域づくりの基本的な方向となります。このため、『保険者』としてだけでなく、全庁的な体制を含めた、『自治体』としての状況の点検・評価が重要です。
- したがって、地域の総合計画等との整合性を図りながら、「ビジョン」を起点に、関係部局とも連携の上、政策・施策・事業のあり方を考え、ひとつひとつの取り組みの成果が上位の目標にどのように貢献しているか、さらに効果的なものとするにはどのような工夫があり得るかを振り返る必要があります。
- 本ツールは、上位目標に照らして施策・事業の位置づけを振り返り、施策・事業を「機能性(=目標とすべき状態の実現に資するように機能しているか)」に着目して見直す視点を提供します。

「ビジョン」を起点に施策・事業のあり方を考え、  
ひとつひとつの取組の成果が上位の目標にどのように貢献したかを振り返る。

## 「機能」面で目標とすべき状態の実現に資しているかを分解して点検する

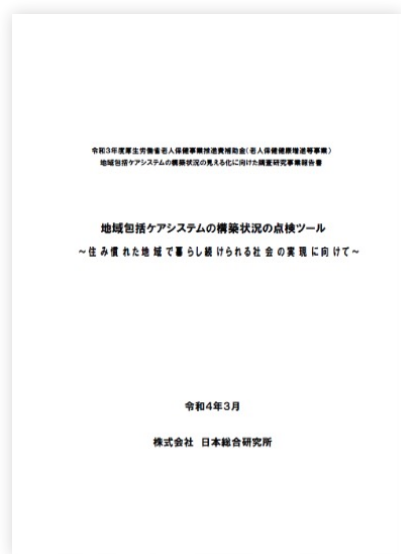


前述の背景にもとづき、令和3年度に、自治体における点検の考え方とそのための方針、参考となる指標等を整理した「点検ツール」をとりまとめた。

さらに令和4年度には、前年度に策定したものをを用いて全国11か所の自治体で実証を行い、点検ツールのブラッシュアップを行った。

## 令和3年度


点検の考え方と方針、参考となる指標等を整理した「点検ツール」をとりまとめて公表

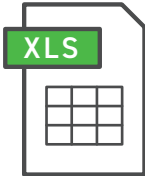



## 令和4年度

全国11か所の自治体で実証  
⇒点検ツールのブラッシュアップを実施

各地域でご活用いただけるよう以下を公開

- 

1  
ツール概要資料  
(本資料)
- 

2  
ツール本体  
(記入や編集が可能な形式)
- 

3  
ツール活用の  
手引き

## 目標に対して手段が合っているか、手段が十分な効果をあげているかを、実施できていない施策・事業を洗い出すチェックリストの考え方ではなく、機能性の観点で点検するもの

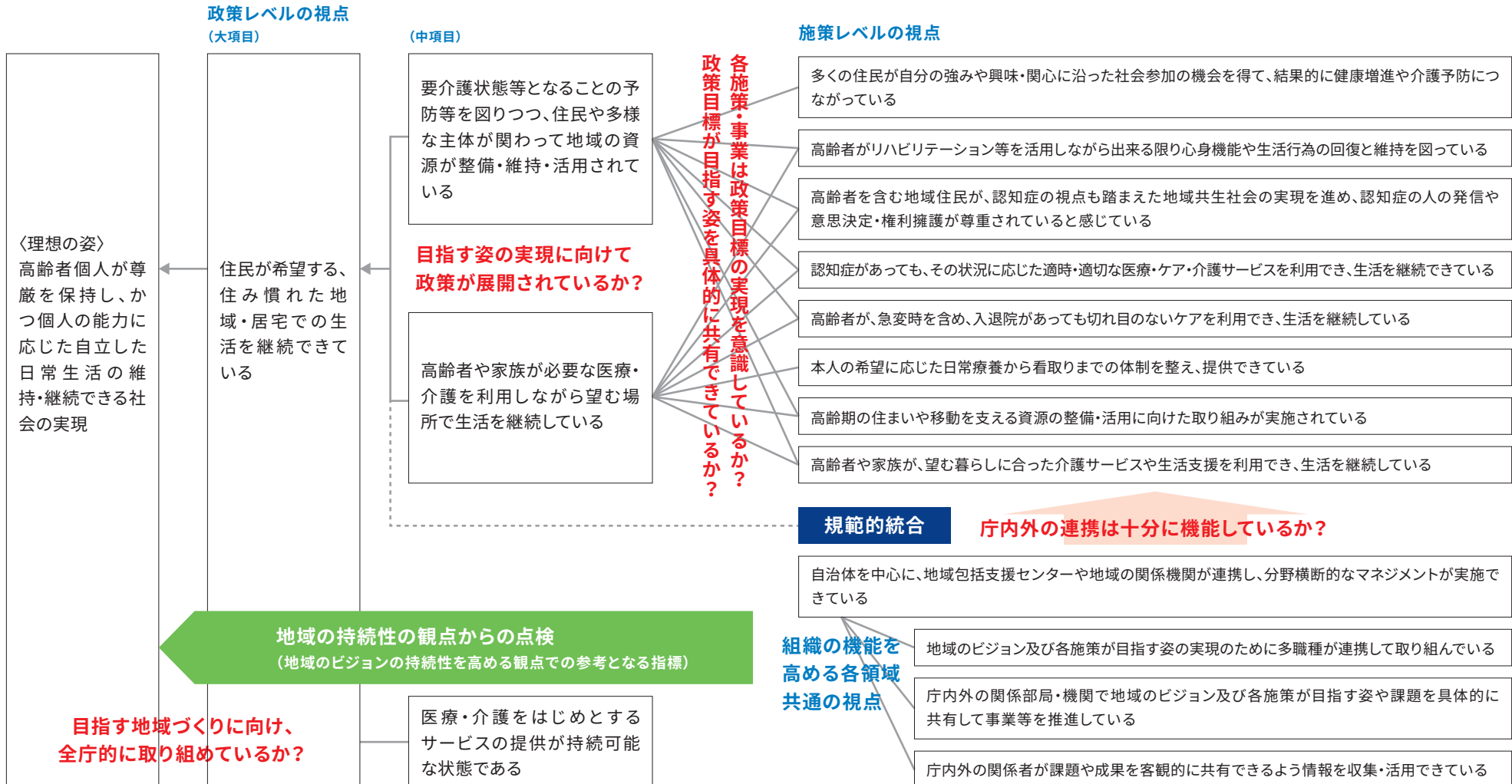
- この点検ツールは、各市町村が、地域包括ケアシステムの構築という「目標」の達成に向けて、介護・福祉分野やそれ以外の資源を活用した施策という「手段」が十分な効果をあげているかを、できる限り客観的な指標も参照しつつ点検するためのツールです。
- 地域資源は有限であることから、この点検ツールは、評価指標の全ての項目が満たされているかを見るためのものとして設計したものではありません。同様に、介護保険分野の資源の整備状況の多寡の確認を直接の目的としたものでもありません。
- 本ツールは、「地域のビジョン」(＝高齢者個人が尊厳を保持し、かつ個人の能力に応じた自立した日常生活の維持・継続できる社会の実現)という「目標」の実現に向けて、その下位に位置付けられた施策や事業という「手段」による取組が十分に成果を挙げ、貢献しているかを振り返り、施策や事業について取り組むべき課題を明らかにしたり、優先順位を検討する際の視点を提供することを目的としています。
- 点検の結果、成果が出ていない、成果に貢献しない施策等は、優先的に見直すことが必要です。同じ成果を挙げることを目的とした手段の中で、より効率性の高い取組に重点化することも考えられます。
- 本ツールは、住まい・医療・介護・予防・生活支援といった個別の施策に位置付けられた事業取組が十分に連携され、「機能性」(＝目標とすべき状態の実現に資するように機能しているか)の観点から、施策の展開をより効果的なものとするための考え方の点検に役立てて頂けるものとしてとりまとめたものです。

本ツールが前提とする点検の枠組みと視点は以下の通り。

地域のビジョン  
(理想の姿)

ビジョンの実現に向けた政策目標の具体化と、その機能、効果についての点検※他分野の政策との連動の視点を含む

個々の施策が連動しつつ、十分に機能しているかを点検  
※それぞれの項目で関連した参考指標を用いて、振り返る



本ツールを利用した点検の流れは以下の通り。

点検ツール本体は、以下の流れに沿って、担当者や庁内関係者がそれぞれ検討結果を記入・共有できるような形式となっている。

## 1 | 視点に関する現在の取り組みの洗い出し

✓ この視点に関する現在実施している取り組みを洗い出す

## 2 | 視点に関連した目指す姿の振り返り

✓ この視点に関して、既存の(上位)計画で位置付けられている目指す姿を振り返る

## 3 | 目指す姿の実現状況の仮評価

- これまでの結果、地域の強み
- 実現できていない要因の検討

✓ 目指す姿の実現に向けた、現時点での実現状況を「仮評価」する

## 4 | 解決すべき要因の検討(仮の絞り込み)

✓ 目指す姿に向けてさらに推進するうえで解決すべき要因(仮説)を検討し、列記する

## 5 | 知りたいことの洗い出し、利用可能な情報の収集・整理

✓ まずは知りたいことを洗い出し、さらに利用可能な情報を収集・整理

## 6 | 確認結果を踏まえた今後の取り組みの検討

- 取り組みをさらに良くするための工夫  
(事業の組み立ての見直し、事業実施方法の工夫など)
- 庁内連携や情報の収集・活用など体制等の改善方策

✓ 上記の確認結果を踏まえ、施策の展開をより効果的なものとするための工夫や見直しをまとめる

➡ 次の施策の検討に反映・活用

関係者とともに適宜、3〜5を繰り返す



点検ツールは、下記のように、各自治体での点検作業に際して、それぞれ入力・編集できるような形式(電子ファイル)で提供。担当者だけでなく、庁内の関係者で情報を共有しながら活用が可能。

## 点検ツールのイメージ(抜粋)と特徴

**点検の視点やその解説を、各シートに分かりやすく記載**

社会参加・介護予防

【この視点の概要】

地域に暮らす高齢者が望む生活の実現とともに、地域の新たな課題を捉えその解決に多くの力を結集していくためには、高齢者を含む地域住民の強みや興味・関心を活かした社会参加の充実が大切です。また社会参加の機会を増やしたり維持したりすることは、結果的に健康増進や介護予防にもつながることが期待できます。高齢者の強みや興味・関心に着目して、多様な社会参加の機会が提供され、結果的に健康増進や介護予防につながるよう、自地域での目指す姿を具体的に共有し、現在の課題とそれら各事業等がどう対応しているかを点検します。

【点検項目】

1. この視点に関連して現在行っている取り組みを洗い出す

・初めに、この視点に関して現在どのような取り組みを行っているかを書きましょう。関連する取り組みは、次に、それらの取り組みによって現状がどう変わると期待していたかを書きましょう。(人の行動や考え)

取り組みの目的と内容

左記の取り組みによる

2. この視点について、目指す姿がどのようなものかを振り返る

・自分たちの地域では、住民の社会参加・介護予防についてどのような姿を目指しているかを、具体的に記述しましょう。

・例えば、総合戦略や介護保険事業計画等ではどのように表現しているか確認してみましょう。

3. 目指す姿の実現状況を仮で評価する

・2で書いたことが現時点での程度実現できているか、

(1) 目指す姿の実現状況 (以下から一つを選択)

- 概ね実現できている …… 目指す姿を具体的に共有し、成果も現れている
- なかば実現できている …… 目指す姿は共有できているが、成果が見られるのはこれからである
- あまり実現できていない …… 取り組みはあるが、目指す姿を共有できていない
- ほとんど実現できていない …… これから目指す姿や取り組みを具体化していく

(2) これまでの成果 (特にこれからの取り組みに活用できる強みを書き出してみましょう)

例えば、この視点に関連する地域の強み、これまでに培われた地域資源を洗い出してください

(3) まだ実現できていない部分について、なぜ、乖離が生じているのでしょうか?

要因として考えられるものを挙げてみましょう

〈解説〉 要因の例

4. 解決すべきと考えられる要因を選ぶ

・3で挙げた複数の要因の中から、とくに「解決すべきと考えられる要因」として重要と思うものを絞り込んでみましょう。

※まずは仮説で良いので「仮の絞り込み」を行い、後の項目5で関連する情報を集めて確認したのちに、さらに加筆修正してください。

〈解説〉 要因の検討や絞り込みの参考となる情報

**一部に選択肢形式を設けるなど、記入しやすい様式**

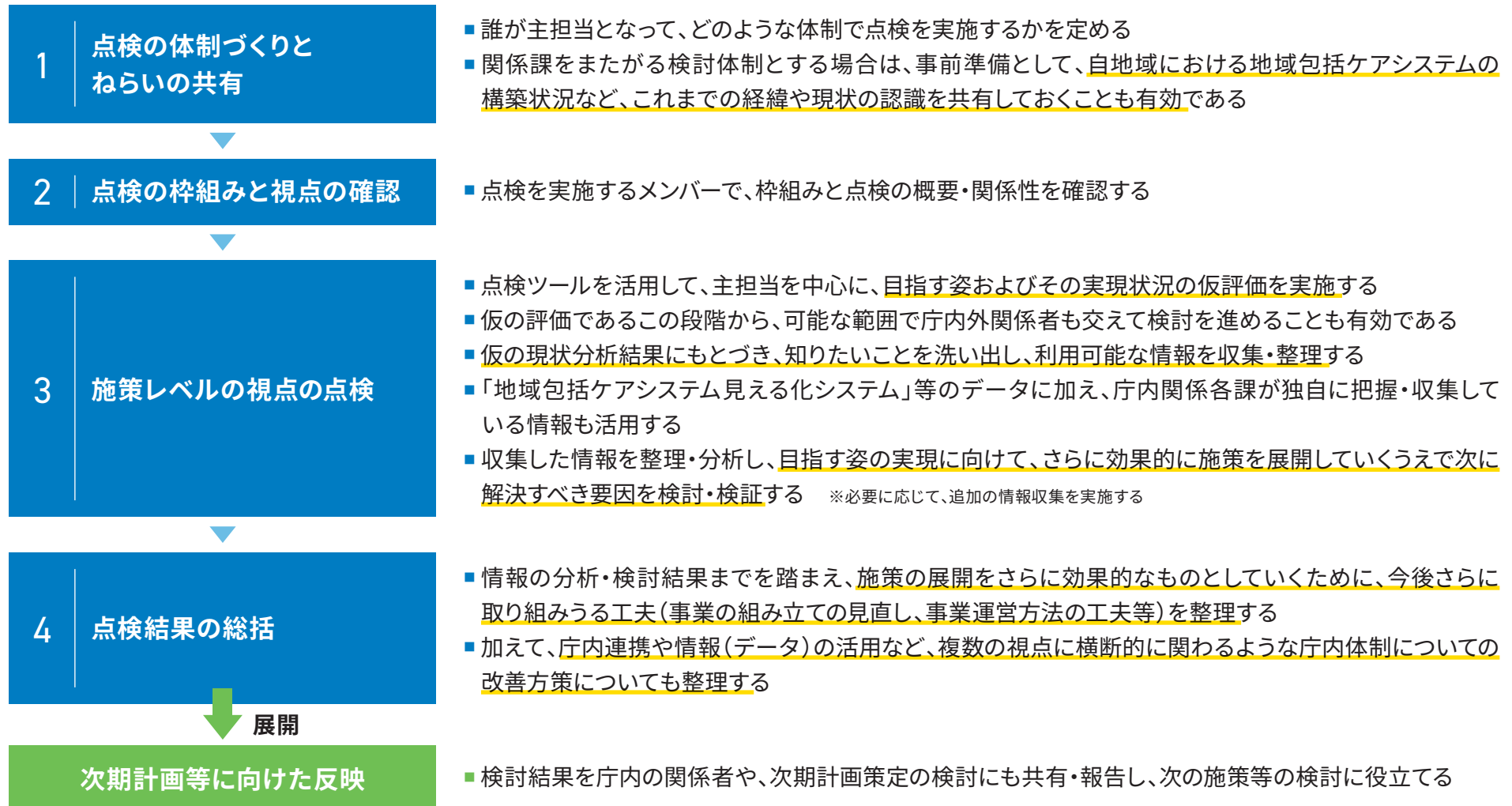
**点検の視点に沿った点検結果の記入欄を用意**

**記入にあたっての解説や参考情報を表示する機能を組み込み**



モデル事業での実施結果を踏まえると、本ツールを活用した点検の実施手順(例)として、以下のような進め方が考えられる。

なお、小規模な自治体では、本ツールが示す視点の一部だけを利用した点検も有効である。



## 本ツールを活用するメリット

- これまでも事業レベルの評価は行われてきました。一方で、施策・事業ごとの評価を意識しすぎるあまり、縦割りに陥ってしまう難しさもあります。
- 本ツールを活用することで地域のビジョンに照らして施策が何を目指していて関連する事業等がどのように位置づけているのかを点検し、施策をより効果的に展開するために、今後どのような工夫や見直しが考えられるかを明らかにできます。
- また、点検ツール(様式)を活用することで、目指す姿や関連する現在の取り組み、今後の工夫などを庁内外の関係者とともに共有・検討しやすくすることができます。

## 本ツールを活用していただきたい場面

- 本ツールは、上位目標に照らして施策の位置づけを振り返り、より効果的に展開できるようなものとなっているかを点検するものです。
- したがって、これまでの施策を点検して新たな施策の展開を組み立てる場面で特にご活用いただくことを想定しています。

### 施策・事業の振り返りや新規立案でよくある悩み

普段担当する事業が、上位目標に照らしてどのように位置づけられるかを考えるのが難しい・・・



保険者機能指標などの結果をどう解釈して、次の施策・事業を組み立てれば良いか分からない・・・



本ツールの活用により

「そもそも何のため」の事業だったかを確認し、事業で解決すべき課題や目標、他の事業との連携の視点を得られる



「なぜ、何のために」新たな施策・事業を組み立てるのかを、理事者等に対して、体系的に説明できる視点を得られる



本事業に関連する情報は以下から入手できます。ご参照ください。

## 地域包括ケアシステム

～効果的な施策を展開するための考え方の点検ツール～

ウェブサイト  
(日本総研HP内)

[https://www.jri.co.jp/service/special/content11/corner113/chk\\_tool/](https://www.jri.co.jp/service/special/content11/corner113/chk_tool/)



掲載内容

- 点検ツール
  - 点検ツール
  - 概要説明資料
  - 概要説明資料の解説動画
  - 点検の手引き
- 本点検ツールに関するこれまでの調査研究事業報告

本ツールは、厚生労働省令和4年度老人保健健康増進等事業の一環で作成したものです。